

12/22 市民集会「アベ政権に、モノが言える市長を！」

市民の暮らし優先にチェンジ!



22日、小倉北区・国際会議場で開かれた北九州市民集会は400人が参加して熱気に包まれました。永田すいさんの日本共産党の真島省三前衆院議員のほか、県議と市議の両候補も駆けつけて、ともに訴えました。

ながた候補は、安倍政権に対し、モノが言える市長が今こそ必要だと指摘。一騎打ちが濃厚の現職の北橋健治氏（65）が「安倍政権の悪政にモノを言わない」ことにふれ、「これでは市民のいのちも暮らしも安全も守れない。2000億円もかかる『下関・北九州道路』建設計画などの大型開発に使う予算を、雇用や教育、営業、医療の充実などに変えれば市民の要求実現は十分可能」と強調。「大型開発優先の市政から、市民の暮らし優先に切り替える絶好のチャンス。それができるのは私、ながた」と訴えました。



政治の流れを変えていく一年に

激励に登壇した民医連健和会の二見哲夫副理事長（戸畑けんわ病院院長）は「北九州市は、いろんなハコ物行政が得意。メディアドームやサッカースタジアム建設にお金が使われたので、私たちの足元にはこない。ながた候補を市長に押し上げて政治の流れを変えていく一年にしていこう」と語りました。



あたまたか
プレゼン
トをいた
だきの



北九州市を 元気にしよう!

真島省三前衆議院議員は、破綻したアベノミクスで市内経済が疲弊した実態を紹介し、「市を元気にするためには、ながた候補の政策を実行するしかない。年明け最初の市長選で勝利して政治を大きく変えていく一年にしていきたい」と力をこめ、参加者の拍手が沸きました。



南区高瀬菜穂子県議、若松区山口律子県議、北区大石正信県議候補、八幡西区伊藤淳一県議候補、市議補欠選挙宇土浩一郎候補

笑顔と希望の北九州市をつくる会
ながた必勝ニュース

2018年12月24日 No.6
小倉北区下道津5-1-35

✉egaotokibou.1.27@gmail.com
562-5055 fax583-5522 (部内資料)